

1 研究主題

「自主的に課題を見付け、より良い学級にしていくための手だてを探る。」

2 研究主題設定の意図

学習指導要領において、学級活動では、学校生活の基盤となる学級をより良いものとするために、諸問題を自主的、実践的に解決しようとする態度を育てることを目標としている。

多くの学校では、学級活動の時間が各種指導の内容に加えて、運動会や文化祭などの各種行事の話し合いや準備などに費やされることが多く、子どもたちが自分たちの学級を自治的に良い学級にしていくための話し合いをする時間を生み出すのは年々難しくなっているという現状が訴えられた。

そこで、こうした現状を踏まえ、限られた時間の中で、学級の子どもたちが自分たちで学級の課題を見付け、自主的により良い学級にしていくために、教師がどのような支援をしたらよいかを「実践事例による情報交換」と「研究授業」によって、具体的な手だてを探るために本主題を設定した。

3 事業の実際

- 4月 第1回専門部会
 - ・研修テーマの検討
 - ・活動計画の立案
 - ・授業者の決定
- 6月 第2回専門部会
 - ・実践例持ち寄りによる情報交換
 - 「子どもが意欲的に取り組むようになった実践事例」
- 11月 第3回専門部会
 - 【研究授業】
 - 6年「自分たちの学級のよさを伝えよう」長谷川祐美子 講師(二葉小)
 - 指導者 上越教育大教職大学院 准教授 赤坂 真二 様

4 成果と課題

【成果】

- ・「子どもが意欲的に取り組むようになった実践事例」の情報交換では、学級のみならず、異年齢による縦割り活動、児童会活動、各種学校行事など多様な集団の中での実践が紹介された。そこでは、集団は変わっても、やはり学級が基本であるということが確認された。また、朝学活の時間を有効に使った話し合い活動の実践例もあり、時間の生み出し方の参考になった。
- ・研究授業では、6年生の担任が自学級のテーマである「絆」を合い言葉にして、卒業に向けて「自分たちの学級の良さを下級生に伝えよう」と投げかけ、子どもたちがその方法を話し合う場面を参観した。ワークシートの活用によって、自分の意見を明らかにしておくこと、質問されそうな内容をあらかじめ考えておくなどの手だてをとったことで、子どもたちは、自分たちの主張をしっかりと説明しながらも、相手の意見にも耳を傾け、お互いの意見をよりよい方向に向かうよう真剣に話し合う姿が見られた。授業後の協議会では、下準備の大切さ、批判的コミュニケーションのとれる雰囲気作り、対立する意見の収束の仕方やフリートークやベアトークを効果的に活用すること、そして、話し合いの中で、子どもたちが常に目的を意識するような支援をすることの重要性が再認識された。

【課題】

- ・教科に比べて、特別活動部会に加入する会員が少ない中、平成23年度は10名の参加をいただいた。ただ、会員の多くが、管理職や級外なため、授業を公開していただける会員を決めるのが困難であった。
- ・本来であれば、検証された有効な手だてや支援を生かした授業を実践し、その実効性を確認する場が設定できれば、より研修が深まると感じる。引き継ぎを密にし、次年度へ生かせるようにしていきたい。